

子どもの学び応援隊

浅利 芙美 / 学校教育課 / 令和3年1月～



ミッション 内容

- 小中学校のICT・IoT活用教育の支援
- 教員のICT活用スキル向上支援

令和4年度 主な 活動成果

- ① ネットモラル・ITリテラシー授業の実施
(小学校10学級 / PTA向け講演)
- ② 小中学生向け「ICTサマーキャンプ」の企画
- ③ 1年間でSNSフォロワー数倍増 (242人→511人)

来年度 卒後

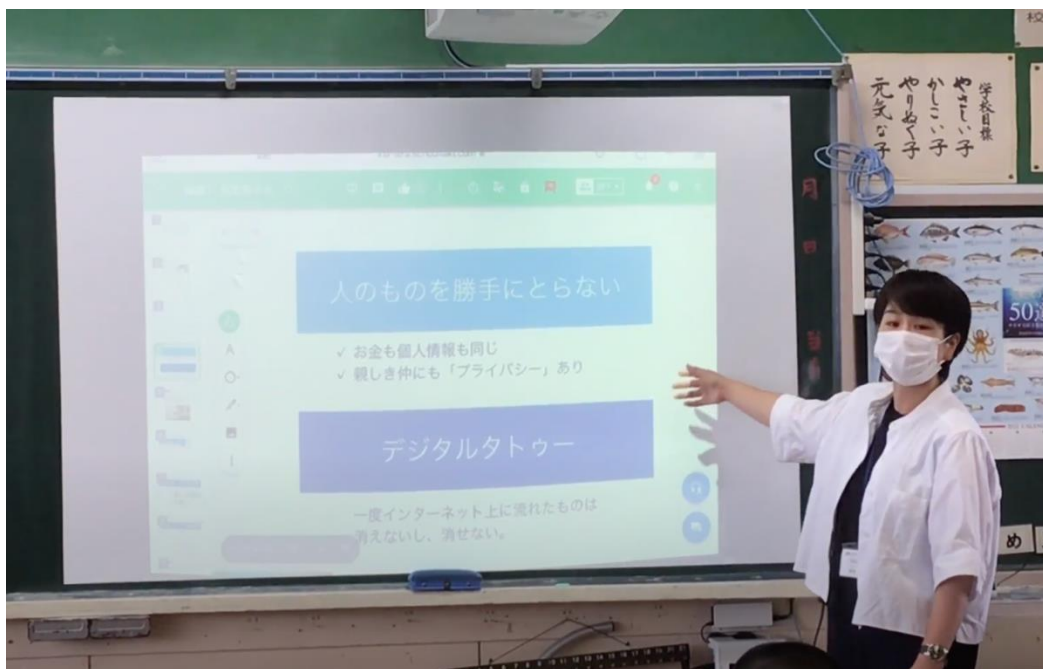
- 小中学生向けリテラシー授業の実施強化
- リテラシー教育補強・伊那市教育の魅力発信・移住促進の活動



① ネットモラル・ITリテラシー授業の実施

R4年度は市内4小学校（合計10学級）で出前授業を実施。

ICT活用に不可欠な「人も他人も不快にさせない」スキルを子どもたちに伝える。



- 事前に学校訪問を行い、担任に問題事例や状況をヒアリングした上で授業内容やゴールを設定。
- schoolTaktの多機能を活用し、iPad操作自体を楽しめる授業を構成。
- 低学年向けの授業や、保護者向けの啓蒙活動を実施。

ICT活用教育

小学校 低学年 ICTリテラシー教育
自分がうつった写真にされたくないこと

実践事例 NO.46

発行：伊那市教育委員会学校教育課
編集：ICT活用教育推進センター

ICTのリテラシー教育は小学校低学年から

「子どもたちのiPadの使い方を見ていると不安に思えるのですがどう指導していくのが良いのかわからなくて。」といった相談事が推進センターにも寄せられています。

伊那市地域おこし協力隊の浅利英美さんは市内の小中学校を訪問して「ICTリテラシー教育」の出前授業を行い担任の先生や子どもたちと一緒に上手なICT活用について考えあっています。



①ICT活用で心配される子どもたちへの健康被害。iPadを使うときには背中を伸ばして目を画面から30cm以上離しましょう。「30cmってどれくらい？」



②子どもたちはiPadの画面と目の距離を物差しやノットを使ってチェックします。背筋を伸ばして、クラスみんなの姿勢が良くなりました。



③学校で使う「学習用iPad」と家庭にあるスマートフォンやiPadを比べて「同じところと違うところ」について考え合いました。クイズで確認もします。



④iPadを持って社会科見学に出かけて撮影するときの上手な撮り方。忘れてはいけないのはマナーです。動画を撮った後に「撮影の際、許可がある写真はどんな写真か？」みんなで考えました。



⑤iPadを使って友だちの写真撮ることがあります。「自分や自分の持ち物がうつった写真にされたくないことはありますか？」いくつかの場面を分類してみました。



⑥友だちの意見を「共同閲覧」してみると「自分がうつった写真にされたくないこと」が人によってみんな違っていることに子どもたちは気づきました。ICTを活用するときには相手のことを気づかうことが大切です。

小学校低学年むけICTのリテラシー授業の内容は



授業の内容が児童に紹介された後、iPadを使うときの姿勢をチェックします。背筋を伸ばすことやiPadから目を離すことについて確認をします。学習用iPadと家庭にあるICT機器との類似点

と相違点を考え、学校でのiPadの利用方法について確認しました。授業中の使用について確認し、社会科見学などで写真撮影をする際の注意点について考え合いました。



撮影許可が必要な写真があることに気づかせ場面ごとに分類をします。個人での利用であれば許可がいらぬもの、公開をする目的である場合には許可があることを学びます。

友だちに「写真を撮らせて」と言われたときの対応の方法や、自分がうつった写真に対してされたくないことを考え合いました。友だちの意見を聞く中で、されたくないことが人によって様々であることに気づきます。

友だちに「写真を撮らせて」と言われたときの対応の方法や、自分がうつった写真に対してされ

ICTを活用する時代にあって子どもたちが身につけておくべきリテラシーは低学年の時期から学ぶ必要があります。

今回の出前授業について浅利さんに聞きました

「低学年では特にトラブルは起きていない」とも聞きますが、早い段階でルールやマナーを知り「自分や他人が傷つかないためにどうすればいいか」を自分で考えていくことが大切です。新しい機能を見つけては試してしまいがちな中学年以降、インターネットコミュニケーションの機会も生まれていく高学年～中学生に向けて、ICT活用をより充実したものにするよう、先生方のお手伝いのできたらと思います。リテラシー出前授業については、推進センターまでお気軽にお問い合わせください！

地域おこし協力隊の浅利英美さんが、東春近小学校で行った出前授業の様子をもとに推進センターで編集させていただきました

伊那市では、「学校教育情報化ビジョン2021」をもとに、iPadを導入して「ICT活用教育」を推進しています。

伝統的
学びを深めるICT活用

先進的
学びに導くICT活用

「Society5.0」時代の
学びを支える教員

個別最適な学び・対話的学び
創造性を育む学びの実現



② 市内小中学生向け「ICTサマーキャンプ」の企画

学校教育課（ICT活用教育推進センター）と、観光課、企画政策課と共同のイベントを企画。
市内小中学校から40名以上の応募実績。コロナ禍の影響で前日に急遽中止になったため
2023年度にスライド実施。

主催：伊那市教育委員会
伊那市ICT活用教育推進センター
伊那市地域おこし協力隊

フィールドワーク×ICT サマーキャンプ 2022

2022年7月29日（金）8:30～16:30 小雨決行
長野県伊那市 長谷地区（南アルプス エコパーク・ジオパークエリア）

自然×文化×歴史×未来
伊那らしい学びを体験！

参加無料

小学1年生～6年生（定員30名）
「南アルプス ジオパークを学ぼう」コース
小学6年生～中学3年生（定員10名）
「ドローン映像で動画編集スキルアップ！」コース

お申し込み・お問い合わせ
伊那市教育委員会 学校教育課 ICT教育推進係
電話：0265-78-4111（内線2715）

伊那市ICTサマーキャンプ 2022 小中学生 参加者募集

伊那市の夏休みの校外活動「Summer Camp（サマーキャンプ）」
自然豊かな伊那谷を舞台に多彩な体験や物事に出会い、
子ども自身の世界を広げる学びを目指しています。
伊那市が提供する教育を体験したがるイベントです。
伊那市内の小中学生を対象に参加者を次のとおり募集します。

【開催日時】
2022年7月29日（金曜日）8:30～16:30
※小雨決行

【会場】
長野県伊那市長谷地区
南アルプスエコパーク・ジオパークエリア
長谷地区（伊那市長谷地区1185号地等）
中央公民館、伊那観光協会（議事室、資料室など）

【内容と対象者】
当日は、2つのコースを同時に実施します。
Aコース
「南アルプス ジオパークについて学ぼう」
小学1年生～6年生（定員30名）
Bコース
「ドローン映像で動画編集スキルアップ！」
小学6年生～中学3年生（定員10名）
・伊那市内の小中学生も参加できます。
・小中学生以外のコースも受け付けます。
・定員以上の応募があった場合は抽選させていただきます。

【申し込み方法】
※2022年7月18日（月）まで
伊那市申し込みフォーム（Googleフォーム）に必要事項を記入の上送信。パソコン、スマートフォンからお申し込みいただけます。

【お申し込みフォーム】
上記フォームからお申し込みください。申し込みの場には、
【参加者氏名】【学校名】【学年】【保護者氏名】
【保護者メールアドレス】【当日の緊急連絡先（電話番号）】
を記載の上、伊那市教育課にメールまたはFAXでお申し込みください。

【お問い合わせ】
Eメール：gah@ina-city.jp
FAX：0265-72-4142

【お申し込みのお願い】
・お申し込み時に記入いただいた氏名・電話番号は伊那市教育委員会が適切に管理し、この募集に関する事務のみで使用し、定員に達した時点で取り消しさせていただきます。
・本事業でスタッフなどの報酬し、活動費や交通費、制作物などの制作費、本事業や伊那市教育委員会に必要となる費用で、報告書や印刷、インターネット（SNSを含む）などに係ることがございます。また、抽選された参加者も利用可能な利用物インターネットに記事・写真が掲載されることとなります。本事業への参加申し込みから上記を承諾したものとします。
・本事業で伊那市教育委員会がインターネット上に公開し、本事業および伊那市に関する、個人（法人）情報等（伊那市南アルプスジオパーク協議会、伊那市、伊那市観光協会、伊那市、伊那市観光協会）から取集められた場合はあらかじめ消去します。ただしそれ以外（郵便物など）を利用・メディアに発信しては対応できませんのでご了承ください。

【お問い合わせ】 伊那市教育委員会 学校教育課 ICT教育推進係 電話：0265-78-4111（内線2715）

伊那市ICT活用教育 2021 Summer Camp

ICTを活用した
長野県伊那市の
オーガニックな学び

森をめぐる冒険

南アルプスと中央アルプスに抱かれ、
山・森・川・草原など自然豊かな長野県伊那市。
2021年7月に伊那市立伊那西小学校で

2021年（R3年度）のサマーキャンプの様子は特設Webサイトでご覧いただけます。

http://www.ina-ngn.ed.jp/summer_camp2021/

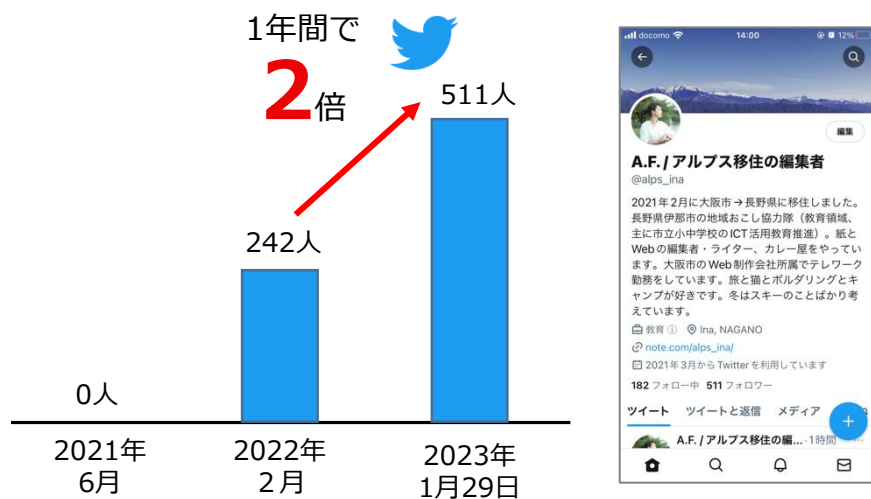


③ 広報の成果 (SNS、雑誌取材)

教育の取り組みや伊那市の魅力を発信する
個人Twitterはフォロワー500名超に！

雑誌「Meets Regional」2月号

伊那市への移住の背景を1ページで特集



ツイート数：1,718 (ほぼ毎日投稿)

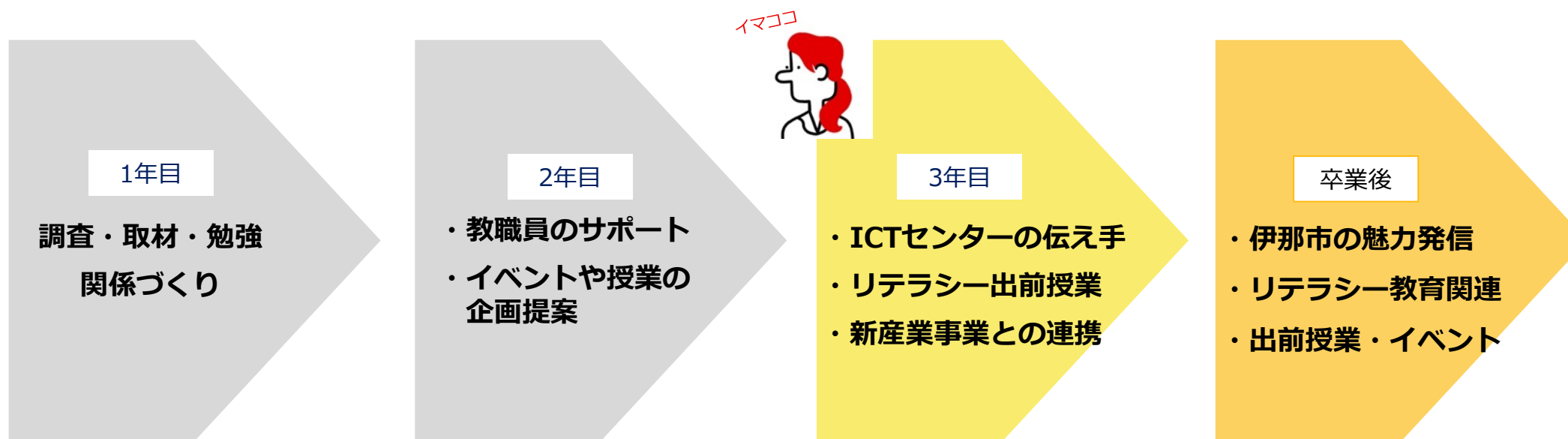
「ミーツ・リージョナル」2023年2月号（京阪神エルマガジン社）
発行部数：15万部（近畿2府4県を中心に首都圏、全国主要都市で販売）



協力隊3年間のロードマップ

2年目で学校現場の取材を重ね、ネットモラル・リテラシー教育のニーズを実感。

任期終了後も、リテラシー教育や小中学生向けの出前授業などで伊那市と関わり続けたい。



学校訪問やGIGAサポーターとの情報共有など
現場の状況把握が重要！